



Title	日本語と韓国語の人称詞の使用頻度 : 対訳資料から見た頻度差とその要因
Author(s)	鄭, 惠先
Description	研究論文
Citation	日本語教育, 114, 30-39
Issue Date	2002
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/43834">https://hdl.handle.net/2115/43834</a>
Rights	ここに掲載する本論文は著作者自身が作成した入稿原稿に基づいて作成したものであり、編集作業を経て最終的に雑誌に掲載された誌面とは異なるものです。本著作物の著作権は社団法人日本語教育学会に帰属します。本著作物は著作権者である日本語教育学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては、著作権の範囲内をお願いいたします。
Type	journal article
File Information	kyoiku.pdf



# 日本語と韓国語の人称詞の使用頻度

## －対訳資料から見た頻度差とその要因－

鄭 惠先

### 要 旨

韓国人日本語学習者の発話には人称詞の過剰使用が見られる。これは、韓国語での人称詞運用に影響されたものと考えられるため、本論では、日本語と韓国語での人称詞の使用頻度の差について検討した。対訳資料を分析した結果、日本語より韓国語のほうで人称詞が多用されるということが明らかになった。その詳細を次の4点にまとめることができる。1)日本語文では、授受表現と受動文が頻繁に使われ、人称詞の省略を促している。2)韓国語の名乗り文では、自称詞多用の傾向が見られる。その原因として、形式のパターン化と自称詞の投入語的役割が考えられる。3)韓国語文では、複数形自称詞が連体修飾語としてよく使われるが、日本語では「内」と「外」を語彙で区別するため省略されやすい。4)韓国語の勧誘文では、複数形自称詞が多く用いられる。その原因として、勧誘語尾の他形式への対応と複数形自称詞の呼びかけの役割が考えられる。

【キーワード】授受表現、受動文、名乗り文、連体修飾語、勧誘文

### 1. はじめに

これまでの中間言語や日本語教育に関する研究の中では、韓国人日本語学習者の人称詞<sup>①</sup>使用に注目した研究はあまり見られない。これは、韓国人母語話者の日本語学習において、文法や他の語彙の習得に比べ、人称詞使用に関する習得はそれほど難しくないと認識されているからであろう。西欧言語での人称代名詞という概念と違って、韓国語では、親族名称や職名などが人称詞として多用される。この語用的特徴は日本語でも同様である。また、文中での主語の明示が必要不可欠である英語などに比べると、韓国語は主語や目的語の省略が可能であるという面でも日本語に似ている。このように、両言語の人称詞の使用環境が非常に類似しているにもかかわらず、実際の韓国人日本語学習者の談話をよく観察してみると、多くの人が人称詞を過度に使っていることに気づく。

以下の談話例(1)は、日本語母語話者(T)と韓国人日本語学習者(S)のロールプレイによる談話データの一部である。この韓国人日本語学習者は、OPIにおける言語能力の判定結果から上級レベルと判定されているが、明らかに自称詞「私」の過剰使用が見られる。(本文中の〈 〉は聞き手の相づち的な発話である。)

(1)T: あーもしもし、〈はい〉えーっと京都駅です、〈あーそうですか〉はい

S: あー私はあー東京から、〈え〉あー1時間前の前に〈ええ〉京都駅に到着した人です、〈あーはーはい〉はい、私は新幹線をあー8時半東京発の、〈はい〉新幹線に乗りました、〈え〉そして、〈はい〉まあ残念ですけど私が私の荷物1つの荷物を、〈はい〉おー汽車の中に、〈はい〉のって、〈はい〉残っております、〈あーはーはーはーはーはー〉私の、〈はい〉座席番号は、〈はい〉6号車の… [KY]

本研究では、このように、韓国語日本語学習者において人称詞、とりわけ自称詞の過剰使用がかなり一般化しているということに着目した。本論では、日本語と韓国語の人称詞の使用実態を考察するため、対訳資料の分析を行った。この分析結果に基づき、両言語の人称詞の使用頻度には差が見られるということを述べ、この違いを生み出す要因を明らかにしていく。

## 2. 対訳資料から見た人称詞の出現頻度の差

今回の考察では、分析資料として日本語と韓国語の両言語で書かれた現代小説を利用した。日本の小説5冊とそれの韓国語翻訳版5冊、韓国の小説4冊とそれの日本語翻訳版4冊、計18冊の小説を分析対象とした<sup>(2)</sup>。これらの小説の中の会話文から人称詞が用いられている文を取り出し、両言語の原作とその翻訳版に現れる人称詞を同一箇所において比較した。使用した小説については本論の最後に記している。

なお、補助資料として日本語学習者の談話データである『KY corpus version 1.1 (1999)』を利用し、この中から韓国語日本語学習者の談話例をいくつか取り上げる。

本研究では、会話文での人称詞の使用に注目している。会話における主体は話し手と聞き手であるので、今回の調査で分析対象とする人称詞は自称詞と対称詞に限定した。この中には、自称代名詞と対称代名詞はもちろん、自分や相手を表すことばとして用いられた親族名称や職名、名前なども含まれている。

まず、対訳資料の中での人称詞の使用実態を把握するため、両国語版の小説の中から自称詞と対称詞の総出現数を調べた。その結果を表1に示す。

表1 両国語版の人称詞の総出現数

(原作版/翻訳版)

	単数形自称詞	単数形対称詞	複数形自称詞	複数形対称詞	合計
日本語版	1517 (787/730)	1070 (487/583)	226 (73/153)	91 (21/70)	2904 (1368/1536)
韓国語版	1728 (908/820)	1187 (713/474)	298 (186/112)	95 (75/20)	3308 (1882/1426)

同じ内容の小説でも、両国語版の間には出現数に差が見られるということがわかる。とりわけ、単数形自称詞と複数形自称詞においてはかなりの頻度差があり、日本語に比べ韓国語の方で人称詞が多用されていることが明らかである。

さらに、このような人称詞の頻度差をもたらす要因を究明するため、両国語版に出現している人称詞の内、一方の版のみに現れた人称詞の数を調べた。小説の中の会話文の同一箇所、韓国語版にない人称詞が日本語版に現れる場合は日本語版のみの出現数と

して、日本語版にない人称詞が韓国語版に現れる場合は韓国語版のみの出現数として集計した。表2はその詳細である。

表2 一方の版のみに出現した人称詞の数<sup>(3)</sup> (原作版/翻訳版)

	単数形自称 詞	単数形対称 詞	複数形自称 詞	複数形対称 詞	合計
日本語版	105(57/48)	69(32/37)	6(0/6)	7(2/5)	187(91/96)
韓国語版	265(192/73)	132(113/19)	80(59/21)	10(10/0)	487(374/113)

表1の結果と同じく、日本語版のみの人称詞の出現数より韓国語版のみの人称詞の出現数が著しく多いことがわかる。これから、表2の結果に基づき、両言語での人称詞の使用頻度の差を生み出す要因について考察を行う。

### 3. 単数形自称・対称詞の頻度差に係わる要因

#### 3-1 授受表現と受動文

日本語と韓国語は類似性が指摘されることが多いが、授受表現と受動文においては非常に異なる様相を見せている。ここでは、この二つの形式を中心として、日本語と韓国語の文形式のずれが、どのように両言語の人称詞に使用頻度の差をもたらすかを考察する。

渡辺文生(2001)では、

ゼロ形式は整合性の高い文脈に現れると予測される。意識の中心にあるものが省略されているのだから、何が指示対象になっているかは多くの推論を要せずと同定できるはずだ。(p. 847)

と述べられている。つまり、韓国語文より日本語文のほうで人称詞の使用が少ないという表2の結果は、同じ事柄を表す文脈の中で、韓国語より日本語のほうで指示対象が推論されやすいからであると考えられる。このように、両言語での文脈の中で、指示対象の推論における難易度に差を与える形式として、授受表現と受動文を取り上げることができる。

まず、授受表現について考えてみよう。

以下の談話例(2)は、日本語母語話者(T)と上級レベルの韓国人日本語学習者(S)のロールプレイである。

(2)S: あ、今日何かある

T: うん、今日、〈ん〉あの、忘年会

S: 忘年会、私なぜ誘った、誘わなかったの [KY]

下線部分の韓国人日本語学習者の発話は不自然である。この文を「どうして誘ってくれなかったの」に替えるとより自然な文になり、このとき、「～てくれる」という授受表現が方向性を表すため、自称詞「私」は不要になる。このように、韓国人日本語学習者にとって、授受表現を上手に使いこなせないということは、時おり誤解を招くおそれがある。

(3)~(6)は、小説資料の中での授受表現の例である。

(3)a わかってくれるだろ。

[シユリ]

b 나 이해할 수 있지? (俺のこと, 理解できるだろう) [쉬리]

(4)a 守ってやることはできない。すまない。

b 널 지켜주지 못해 미안해. (君のことを守ってやれなくてごめん) [쉬리]

(5)a もっとえり子が相談してくれていたら, [킷친]

b 에리코가 나한테 자세하게 의논이라도 해주었으면, (えり子が私に詳しく相談でもしてくれたら), [키친]

(6)a こんな感情を, わかってもらうように説明する自信も, 根気もなかった。

[킷친]

b 그런 감정을 내가 이해할 수 있도록 설명할 자신도 끈기도 없었어. (そんな感情を君が理解できるように説明する自信も根気もなかった) [키친]

韓国語文の(3)bでは, 授受表現が用いられていない。よって, 指示対象「나 (俺)」を表面上に示さなければ曖昧な文になりやすい。一方, 日本語文の(3)aでは, 「～てくれる」という授受表現が明確な方向性を表している。

(4)と(5)の場合は, 韓国語文でも授受表現が用いられている。しかし, 韓国語の授受表現は日本語と違って, 「～てやる」と「～てくれる」の区別がない。そのため, (4)bと(5)bでは, 両方とも同じ形式の授受表現である「～아/어 주다」が用いられており, 「～てやる」として使われた(4)bでは「널 (君を)」, 「～てくれる」として使われた(5)bでは「나한테 (私に)」が, 動作の方向に関わる人物として文の表面に明示されている。

(6)のような「～てもらう」の形式は, 日本語に比べると韓国語ではそれほど広い範囲で使われる形式ではない。そのため, (6)aの「～てもらう」をそのまま韓国語に訳すのは困難であり, (6)bでは授受表現が省略されている。

このように, 日本語文での授受表現は, 韓国語文では「～아/어 주다」形式に訳されるか, さもなくば省略されるケースが多い。なお, (7)のように, 授受表現と使役を組み合わせて用いる文も韓国語では見られない形式である。

(7)a 聞かせてやろうか。 [샨]

b 내 얘기 해줄까? (私の話をしてやろうか) [무소]

次に, 受動文の例を見てみよう。

(8)a 別に好かれてるんでもないしね。 [킷친]

b 딱히 널 좋아하는 것도 아니고. (別に私のことを好きなわけでもないし)

[키친]

(9)a あの美しい声で語られた詞を信ずるまでだ。

[一月]

b 그 아름다운 음성으로 내게 건넸던 말을 믿을 뿐이다. (あの美しい声で私に語ったことばを信ずるまでだ)

[달]

(8)aと(9)aの受動文をそのまま韓国語に訳すのは不可能である。よって, (8)bと(9)bでは受動文の代わりに能動文が用いられている。このように, 韓国語での受動文は日本語に比べ非常に使用範囲が狭い。金慶珠(2001)でもこの傾向について指摘されている。

JJ(日本語母語話者)における特徴としては, 談話全体を通じて特定の人物を反復的に主語の位置に据えることによって, 話し手の視点対象を固定させる傾向が KK(韓国語母語話者)よりも強く, 結果として, その視点対象が置かれている状況に

より「サレル型」や「ナル型」の表現が多く用いられる傾向が見られた。一方でKKにおいては、談話全体に占める「スル型」動詞の比率がJJよりも高く、文の主語に動作の主体を据える傾向が著しいため、表面的には主語の変動性が高まる結果をもたらしていた。(p. 67)

さらに、田中裕司(2001)では、

(日本語の受動文で)動作主句は表出されなくても文の適格性は損なわれない…  
(中略)…主語と目的語は省略されてもゼロ代名詞として機能して先行文脈に導入済みの名詞句と同一指示になる。(p. 414)

と述べられている。つまり、視点対象の一貫性のため主語を固定する傾向が強い日本語は、動作主体中心で談話構成をする韓国語に比べ、受動文が多く用いられる。よって、動作主や主語、目的語などの省略が起こりやすく、これらの位置に来やすい人称詞は省略されやすい環境にあると考えられる。

なお、上記の二つの要因ほどのずれは感じないとしても、(10)で見えるような「～てくる」を用いる文も内容によっては韓国語に直訳するのが困難な場合がある。一方、日本語の中でこのような形式は方向性を示すのに有効に用いられており、これらも自称・対称詞の省略を促す一つの要因になっていると考えられる。

(10)a わざわざ電話をかけてくるなんて、どうしたんだ。 [シュリ]

b 웬일로 나한테 전화를 다했어? (どういうことで俺に電話をした) [쉬리]

以上の考察内容に基づき、小説資料の韓国語版だけに現れた人称詞の中から、授受表現と受動文が要因であると判断できる例を取り出した。2. の表2に示した韓国語版のみの出現数の中から単数形自称詞と単数形対称詞の397例を調べた結果<sup>(4)</sup>、48例がこのような文であった。これは全体の12.1%を占めていることになる。

### 3-2 名乗り文

ここでは、名乗り文という側面から人称詞の使用頻度の差を考察する。名乗り文には授受表現や受動文のような形式上のずれはないが、人称詞の使用頻度には差が現れている。

まず、韓国人日本語学習者の談話データを見てみよう。以下の二例はロールプレイで、二例とも韓国人日本語学習者(S)の日本語レベルは上級である。

(11)T: はい、伊藤屋です

S: すいませんけど、さっきわたしがお菓子を買った人ですけど、このお菓子がちょっとおかしいですよ [KY]

(12)T: はいはい、お名前は

S: 私はSと申します [KY]

このような名乗りの場面で、韓国人日本語学習者は文頭に話し手を表す自称詞を用いる傾向が強い。小説資料でもこのような傾向は明らかで、自分の身分を明かす、いわゆる名乗り文の中で、韓国語文では文頭に自称詞が明示されているが、日本語文では省略されているケースが多かった。

(13)a 井原まさきと申します。 [一月]

b 저는 이하라 마사키라 합니다. (わたしは井原まさきと申します) [달]

(14) a あの, パク監督ですが…。 [サイ]

b 저 박 감독입니다. (わたくし, パク監督です) [무소]

名乗り文は大きく分けて二通りである。(13)のように, 初対面の人に自分の名前や身分などを知らせる場合と, (14)のように, お互い知っている人に電話などで自分であることを示す場合である。後者の場合, 韓国語では必ずといっていいほど自称詞を用いる。その要因を次の二点にまとめることができる。

まず一つ目は, 限られた場面での言語形式のパターン化である。全体から見て日本語に比べ韓国語のほうで人称詞が多用されていることは明らかである。このような全体としての流れは各言語形式に大きく影響を与える。とりわけ電話でのしゃべり出しというきわめて限られた設定では, 非常にパターン化されやすいと考えられる。

もう一つの要因は, 自称詞の投入語 (filler) 的役割である。韓国語では電話で自分の名前を名乗るとき, 自称詞に助詞をつけずに, 「わたし, ××です」という形式を用いるのが普通である。ここでの自称詞は, 日本語での電話対応でよく用いられる「あの,」という投入語と非常に似ている機能を持つと考えられる。例(14)の日本語訳で, 韓国語の「저 (わたくし)」の代わりに「あの,」という投入語が使われていることからこのような傾向が裏付けられる。

これに関連して小説資料を分析した結果, 韓国語版だけに現れた単数形自称詞 265 例の内, 12 例が名乗り文の例で, これは全体の 4.5%になる。非常に限られた形式であることを考慮するとかなり高い割合であると判断できる。

#### 4. 複数形自称詞の頻度差に係わる要因

##### 4-1 人称詞が連体修飾語になる文

ここでは, 複数形自称詞が体言を修飾する文について考察する。(15)~(17)は, 上級レベルの韓国人日本語学習者の談話データである。

(15) あー私の, 私のち, はい, あっ父, ですね (はい) 私の父 あー前から会社員です, (あーはーはー) 今は休んでいます, (あーそう) はい [KY]

(16) うん, (うん) 北朝鮮の, (ん) 17名の, (ん) あー, ひとつの家族が, (ん) みんな中国に移して, 中国の, (ん) 何か知り合いの人に助けてもらって, (ん) また, いっかげ, 一ヶ月かけて, (ん) 私の国, (ふーん) 来ました, [KY]

(17) 私は家に帰ったら, 両親とあまり話さないんですけども, 私の弟は両親, とはもちろん, 友達とかいろんな人と, すぐ親しくなりますから, (うん) 私の弟には事業が似合うということで [KY]

これらの談話例のように, 家族など自分が所属しているグループを話題にする発話で, 韓国人日本語学習者は指示対象を修飾する自称詞を用いることが多い。これは母語干渉の一例であり, とりわけ(16)の「私の国」は明らかに韓国語からの影響であると考えられる。さらに, (18)のように, 連体修飾語として使われる自称詞には, 日本語では単数形自称詞が用いられるのが普通であるが, 韓国語では複数形自称詞「우리」が用いられる例が多い。

(18) a オレの大学に方言の専門家がいるから, そいつにきいてみてやらあ, [リング]

b 우리 대학에 방언전문가가 있으니까 그치한테 물어보지. (俺たちの大学に

方言の専門家がいるから、そいつに聞いてみる) [링]

(18)b の韓国語文では、発話の状況から見ると「우리 (俺たち)」と指示される仲間は存在しない。しかし、韓国語ではこのような表現が多く使われており、たとえば、一人暮らしの人が自分の家のことを「우리 집 (私たちの家)」といい、結婚している男性が自分の妻のことを「우리 집사람 (僕たちの家内)」と表現するのは非常に一般的である。上記の談話例のように、韓国人日本語学習者の発話で連体修飾語としての自称詞が頻繁に使われるのも、韓国語でのこのような複数形自称詞の用法に影響されたものと考えられる。これらの韓国語の複数形自称詞「우리」の用法にもっとも多く対応している日本語訳は(19)aのような「うちの」である。

(19)a うちの親父は、がんこでしょうがないのですよ。 [新美]

b 우리 아버지는 고집불통이라서 소용이 없답니다. (僕たちの親父は、がんこでしょうがないのです) [금빛]

しかし、連体修飾語としての複数形自称詞「우리」は、日本語文の中で「うちの」や単数形自称詞に訳されるだけでなく省略される場合も多い。(20)と(21)はそのような例である。

(20)a さあ、坊やも早くねんねしなさい。 [新美]

b 자, 우리 아기도 어서 자야겠지요? (さあ、我が子も早く寝なきゃね) [금빛]

(21)a お父さんが帰る前にもとのところに戻しとかなきゃならないんだ。 [英雄]

b 우리 아버지 돌아오시기 전에 제자리에 갖다 놔야 돼. (うちのお父さんが帰られる前にもとのところに戻しとかなきゃならないんだ) [영웅]

このように、韓国語での連体修飾語としての複数形自称詞が日本語訳の過程で省略される原因として、語彙の形式的な側面を取り上げることができる。

韓国語は日本語と違って、家族を指す語彙を「内」か「外」かによって区別しない。つまり、日本語では呼称でないかぎり、「お父さん」といえば人の父親を、「父」といえば自分の父親を指す場合が多いが、韓国語ではこのような区別がない。(15)(17)の韓国人日本語学習者の発話で「私の父」「私の弟」という表現が頻繁に見られるのも、このような母語の影響だと考えられる。韓国語では、家族を指す語彙に複数形自称詞「우리」を連体修飾語として付け加えることで、「内」と「外」を区別する機能を果たしているのである。

今回分析した小説資料の中で韓国語版だけに現れた「우리」は、全複数形自称詞 80 例の内 73 例である<sup>(6)</sup>。これらを調べた結果、25 例が連体修飾語として使われた「우리」で、「うちの」に訳せるものであった。これは全体の 34.3%になる。

#### 4-2 勧誘文

ここでは、複数形自称詞の使用頻度の差を生み出す要因として、勧誘文について考察する。小説資料の中からいくつかの勧誘文の例を挙げてみよう。

(22)a 統一祖国の空のもとでまた会おう。 [슈리]

b 통일 조국의 하늘 아래 우리 다시 만나자. (統一祖国の空の下で、われら、また会おう) [쉬리]

(23)a さあ, 出ましょう。 [아빠]

b 우리 나가요. (私たち, 出ましょう) [아버지]

(24)a 海でも見に行かない。 [아이]

b 우리 바다나 보러갈까? (私たち, 海でも見に行こうか) [무소]

韓国語文では、勧誘文の中で「私たち～ましよう」「私たち～ようか」の形式が多く使われているのに対し、日本語文では複数形自称詞が使われていない。韓国語の勧誘文で複数形自称詞「우리」が多く用いられる原因として、次の2点が考えられる。

まず、勧誘語尾の他文形式への対応である。韓国語で勧誘を表す文末語尾としては、(22)bの「～자」, (23)bの「～아/어요」, (24)bの「～ㄴ/을까?」などが挙げられる。この内、丁寧体での勧誘語尾である「～아/어요」は、勧誘文だけではなく、平叙文と命令文にも対応している。なお、「～ようか」の意味になる「～ㄴ/을까?」は、推量を表す場面でも用いられる。つまり、述部だけを見てみると、(23)bの「나가요 (出ましょう)」は「出ます」「出てください」とも解釈でき、(24)bの「보러갈까? (見に行こうか)」は「見に行くだろうか」とも解釈できる。これらは文脈やイントネーションによって区別されるので、文中に複数形自称詞を明示することは、勧誘文であることを示す有効な目印になる。そうだとすれば、平叙文や命令文などで自称詞や対称詞が頻繁に用いられるのも当然のことで、これが全体的な人称詞の多用にもつながっているのであろう。

もう一つの原因は、複数形自称詞の呼びかけの役割である。勧誘文での複数形自称詞「우리」には助詞などが後接しにくいことから、他の文で使われる「우리」とは異なる働きをすると考えられる。つまり、主語としての役割ではなく、呼びかけ的な役割を果たしているということである。(23)aの日本語文で複数形自称詞の代わりに「さあ」という呼びかけが用いられているのも、このような影響ではなかろうか。

小説資料を分析した結果、韓国語版だけに現れた「우리」73例の内18例が勧誘文の例で、これは全体の24.7%である。したがって、連体修飾語としての「우리」と、勧誘文での「우리」を合わせると、韓国語版だけに現れた複数形自称詞「우리」における頻度差の約60%の要因が解明されたことになる。

## 5. 結論

以上、日本語と韓国語の人称詞の使用頻度について考察を行った結果、日本語に比べ韓国語のほうで人称詞が多用されていることが明らかになった。つまり、韓国人日本語学習者が日本語での談話の中で人称詞を過剰に使用する背景には、このような両言語での人称詞の頻度差が大きく影響しているのである。また、その要因として以下の4点が明らかになった。

- 1) 授受表現と受動文は、韓国語に比べ日本語のほうでより頻繁に使われており、これらが指示対象への推論を容易にすることによって、日本語文での人称詞の省略を促す役割を果たす。
- 2) 名乗り文では、韓国語のほうで自称詞多用の傾向が見られ、その原因としては、言語形式のパターン化と自称詞の投入語的役割が考えられる。
- 3) 韓国語文では、複数形自称詞「우리」が連体修飾語としてよく使われているが、

日本語文では省略されやすい。これは、語彙によって「内」と「外」が区別できる日本語の特徴によると考えられる。

- 4) 韓国語の勧誘文では、複数形自称詞「우리」が多く用いられ、その原因としては、勧誘語尾の他文形式への対応と複数形自称詞の呼びかけの役割が考えられる。

このような要因は、各々分離しているのではなく、お互いに影響しあいながら、全体の人称詞の頻度差を生み出していると考えなければならない。なお、今回の調査で明らかになった要因は、全体の人称詞の頻度差から見ると狭い範囲であると思われるので、今後さらなる観察と発見が必要であろう。

また、本論は、韓国人日本語学習者の人称詞過剰使用の傾向に焦点を当てているため、主に韓国語での人称詞多用の要因について考察と分析を行った。しかし、今回使用した小説資料では、韓国語版に現れない人称詞が日本語版のみに現れる場合も少なくなく、今後、両言語の人称詞の頻度差を考察する上で、必ず議論すべき部分であると考えられる。

## 注

- (1) ここで用いられている「人称詞」という用語は、鈴木孝夫(1973)の定義による。話し手を表す場合を「自称詞」、聞き手を表す場合を「対称詞」と呼ぶことにする。
- (2) これらの小説の中には短編集なども含まれており、翻訳版によっては収録作品が若干異なる場合があったが、そのような作品は分析対象から除外した。
- (3) 分析例の中には、人称詞ではない形式で人称を明示している文や、両国語版の間で単数形と複数形が交差して対応している文などがあり、表2での各出現数が必ずしも表1での総出現数の差異に一致するわけではない。なお、韓国語版のみの出現数の中には、「내(자기) 멋대로 (自分勝手に)」、「나(저)도 모르게 (思わず)」など、きわめて慣用的な用法の自称・対称詞の例があったが、これらは集計の対象に含んでいない。
- (4) この項目の分析で対象としている人称詞は、単数形自称詞と単数形対称詞に限っている。複数形人称詞の場合は、別の要因との係わりが強いと考えられるので、分離して分析したほうが望ましいと判断した。
- (5) 今回の分析で用いている「人称詞」という用語は「人称代名詞」とは定義が異なるため、ここでの複数形自称詞には複数形人名詞や複数を表す普通名詞をも含めて集計した。「우리」の外に、「저희 (私ども)」や「모두 (みんな)」などがあった。

## 参考文献

- (1) 奥津敬一郎(1983)「何故受身かー〈視点〉からのケース・スタディー」『国語学』132 pp. 65-80.
- (2) 神尾昭雄(1985)「談話における視点」『日本語学』4-12 pp. 10-21.
- (3) 金慶珠(2001)「談話構成における母語話者と学習者の視点ー日韓両国語における主語と動詞の用い方を中心にー」『日本語教育』109 pp. 60-69.
- (4) 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』 岩波書店.
- (5) 田窪行則(1997)「日本語の人称表現」田窪行則(編)『視点と言語行動』 くろしお

出版 pp. 13-44.

- (6) 田中裕司(2001)「日本語の受動文における動作主の省略と関係節化」中右実教授還暦記念論文集編集委員会(編)『意味と形のインターフェース 上巻』くろしお出版 pp. 411-422.
- (7) 平川八尋(1989)「主題省略の再生メカニズムにおける日本人と外国人日本語学習者の相違」『日本語と日本文学』11 筑波大学国語国文学会 pp. 左 1-左 8.
- (8) 益岡隆志(1997)「表現の主観性」田窪行則(編)『視点と言語行動』くろしお出版 pp. 1-11.
- (9) 三上章(1970)『文法小論集』くろしお出版.
- (10) 水谷信子(2001)『続日英比較 話しことばの文法』くろしお出版.
- (11) 渡辺文生(2001)「日本語の談話におけるゼロ形式の指示対象について」中右実教授還暦記念論文集編集委員会(編)『意味と形のインターフェース 下巻』くろしお出版 pp. 847-857.

#### 分析資料 (下線部は略記)

村上春樹 『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮文庫 1987 / 村上春樹 권남희訳 『개똥벌레 헛간을 태우다 그 밖의 단편』 창해 2000 / 吉本ばなな 『キッチン』福武書店 1988 / 吉本ばな나 김난주訳 『키친』 민음사 1998 / 新美南吉 『新美南吉童話集』岩波文庫 1996 / 新美南吉 조양옥訳 『금빛여우』 현대문학북스 2001 / 鈴木光司 『リング』角川ホラー文庫 1998 / 鈴木光司 윤덕주訳 『링』 CNC MEDIA 1998 / 平野啓一郎 『一月物語』新潮社 1999 / 平野啓一郎 양윤옥訳 『달』 문학동네 1999 / 이문열 『우리들의 일그러진 영웅』 민음사 1992 / 이문열 藤本敏和訳 『われらの歪んだ英雄』情報センター出版局 1992 / 김정현 『아버지』 문이당 1996 / 김정현 田嶋きよ子 他訳 『아보지』双葉社 1998 / 공지영 『무소의 뿔처럼 혼자서 가라』 푸른숲 1998 / 공지영 石坂浩一訳 『사이의角のようにひとりで行け』新幹社 1998 / 정석화 『쉬리』 한국출판협동조합 1999 / 정석화 金重明訳 『슈리』文春文庫 1999 / 『KY corpus version 1.1』鎌田修・山内博之(他) 科研「第二言語としての日本語の習得に関する総合研究」グループ 1999

(大阪府立大学大学院)